

令和5年度（2023年度）
社会福祉法人いなほ福祉会 平見ハイツ 事業報告

1. 利用登録者数と利用実績（令和6年3月末）

【利用登録者数】10名（男性 5名・女性 5名）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日
延利用人数B型	279	269	280	238	236	271	289	273	273	258	258	285	3,209人
1日平均	9.3	8.6	9.3	7.6	7.6	9.0	9.3	9.1	8.8	8.3	8.8	9.1	8.8人

令和4年度 延利用人数 3,205人 1日平均 8.7人

<障害支援区分の分布>

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2
2名	1名	3名	2名	2名

<平均障害支援区分 3.96>

2. 職員体制（令和5年3月末）

職 種	定 数	現 員
管 理 者	1	1
サービス管理責任者	1	1
生活支援員	1. 8	6
世話人	1. 6	9
計	5. 4名	17名

3. 今年度の重点方針

①入居者の希望や思いを察知できるよう努め、ハイツで安心して豊かな生活が送れるよう支援を行います。

- ・家族や作業所等との連携を通し、入居者の状況を把握するようにしています。希望や思いをうまく表現できない入居者の気持ちをくみ取るようにしながら、日々の生活の中での小さな変化を見逃さないようにし、しっかりと入居者に向き合っていくことを大切にしながら支援を行いました。

②家族の高齢化に備えて、帰省しなくても安心して暮らせる生活支援や休日の過ごし方等、ハイツでの支援の在り方を検討します。

- ・休日は帰省する習慣となっている方も安心してハイツで休日を過ごせられるように支援を考えなければいけないこと、入居者が出来ることまで手伝い過ぎないよう見守る事も支援であること、入居屋が受け身でなく暮らしの主体であることを考える機会を持つようにしました。ハイツでの生活が入居者それぞれの暮らしになるよう、支援の在り方の検討を継続していく必要があります。

③体調変化の把握や心身の状況によりハイツで療養する判断を、シフト勤務体制でも対応出来るようにします。

- ・通所日は主任の勤務時間を早め、入居者の出勤前の様子を世話人から引継ぎ通所の判断をする等、体調変化への対応をよりきめ細やかに出来るようにしました。

④宿泊体験やショートステイの受け入れを再開します。また、独り暮らしの作業所利用者への支援について、作業所職員と連携しながら検討していきます。

・家庭都合による宿泊体験利用の受け入れを必要に応じて行いました。今年度は定期的な体験利用の受け入れを制限していたため、世話人が利用者への対応に慣れないため、作業所職員の同泊対応での受け入れとしました。

・作業所利用者のアパートへの転居による支援を、サテライト型住居として開設し受け入れました。しかし、本人希望でアパートでの一人暮らしは3ヶ月で終了し、ショートステイで利用した暖海ハイツへの入居につながりました。

サテライト型住居としては短期間の事業終了となりましたが、本人が穏やかに暮らせる環境につながられる事が出来ました。

⑤研修や学習の機会を充実させ、支援者の資質向上に努めます。

・交代での勤務体制になっているため、職員会議での情報共有を大切にしました。

・個別ケースや虐待防止等について意識し合う場を持ち、利用者理解へと繋げました。

しかし、「不適切な支援」が確認され、虐待防止委員会に報告し迅速に対応しました。

支援経験のない職員に対して関わり方や支援で大切にすること、職員間の連携など、具体的な場面で伝えることが不十分であったことが課題としてあげられます。

4. 入居者への提供サービス

(1) 〔個別支援計画〕

①「個別支援計画」を策定し、計画の実施、並びに適時見直しを行いました。

(2) 〔生活支援〕（入居者の生活の質を高める支援）

入居者の豊かな暮らしに繋がるよう支援を行いました。

①食事の提供（朝食と夕食）

・栄養管理、買い物、食事準備、必要に応じた昼食の提供

・食堂、台所、食器等の衛生保持と管理

・献立記録

※偏食の入居者への食事を工夫しながら行いました。

②金銭出納にかかる支援

・入居者負担金（利用料・入居費）の管理

・金銭出納帳の管理

・入居者個別の金銭管理

③健康にかかる支援

・服薬、通院、受診等の管理、相談、助言、同行

・規則正しい生活、清潔、衛生面についての相談、助言、支援

・朝、夕の健康状態の確認

④日常生活場面における支援

・福祉サービス事業所、職場、交友関係、家族との関係、個人生活、社会生活にかかる相談、助言、連絡、調整、支援

⑤行政機関等の手続きにかかる相談、助言、連絡、調整、支援

⑥職場訪問や余暇活動への相談、助言、連絡、調整、支援

- ⑦緊急時（事故・病気等）の対応
- ⑧地域行事への参加と住民との交流をはかる
- ⑨その他

・ハイツでの生活を少しでも楽しめるよう休日の過ごし方等、生活を楽しむ工夫を行いました。

(3) [入居者自治の育成]

①入居者の自治や余暇等への各種支援

・日常の生活の中で職員が仲立ちとなり入居者同士の関係づくりや交流等、関わりが持てるような機会を大切にしました。

5. 緊急時の対応

日付	緊急時対応の状況およびその後の経過
3月28日(木)	入浴前にローカで転倒し頭部を強打し町立温泉病院へ救急搬送。検査を受けるが問題なかったため帰宅し様子を見る。帰宅後も症状なく済む。

※8/31 早朝に火災通報装置の誤発報があり対応しました。

6. 事故発生時の対応

事故発生時の対応をする案件はありませんでした。

7. 虐待および身体拘束発生状況

身体拘束説明書・同意書作成 2名

【虐待案件】 0件

【身体拘束発生案件】 1件

日付	身体拘束の発生状況とその後の経過および虐待防止委員会の検討結果
10月5日(木)	不穩のため早退し帰宅中に乗車している車のレバー等を引っ張ったため制止するとさらにパニック状態となる。本人の安全を守るためには制止する必要がある、緊急やむを得ない事案であり虐待にはあたらないと判断。

【不適切支援案件】 1件

日付	不適切支援の発生状況とその後の経過および虐待防止委員会での検討結果
1月29日(月)	聞き取りにより不適切な支援の事案を確認する。委員会で検討を行い「虐待」とまではいかないが「不適切な支援」として判断。那智勝浦町福祉課へ報告し委員会の判断と対応は適切との判断を受ける。

8. 苦情解決実績報告

苦情の案件はありませんでした。

9. 職員（援助者）の援助技術の向上

(1) 職員会議の実績報告

・支援職員全体会議	→	12回開催
・運営会議	→	5回開催
・個別支援計画策定会議	→	2回開催
・モニタリング会議	→	2回開催

(2) 職員研修の実績報告

【内部研修】

日程	主催	研修内容	講師	参加人数
4月22日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修 後日 伝達研修	人権擁護推進委員	13名 2名
7月8日	いなほ福祉会	会議の技術 「ファシリテーションを学ぶ」	教育研究開発センター 平野 隆則氏	2名
8月21日	平見ハイツ	110番非常通報装置について	平見ハイツ主任	11名
9月19日	平見ハイツ	他県での虐待ケースについて	平見ハイツ管理者	13名
9月30日	いなほ福祉会	防災教育 BCP（災害・感染症）の周知	那智勝浦町役場防災対策担当柴田氏 災害対策委員・安全管理感染症対策委員	2名
11月21日	平見ハイツ	強度行動障害支援者養成研修 伝達研修	平見ハイツ主任	13名
1月23日	平見ハイツ	他県での虐待ケースについて	平見ハイツ管理者	14名
3月18日	虐待防止委員会	障害者虐待について	細野理事長、下口理事	17名

【外部研修】

日程	主催	研修内容	講師等	参加人数
9月8日	わされん	グループホーム関係職員 学習交流会	社会福祉法人おもと会 杉谷修氏	3名
10月25,26日	和歌山県	強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修)	県障害福祉課等8名	1名
12月14日	わされん	保護観察についての研修会	総括社会復帰調整官 曾澤 由希子氏 総括保護観察官 川瀬 厚氏	1名
2月20,21日	和歌山県	強度行動障害支援者養成研修 (実践研修)	県障害福祉課等7名	1名
3月2日	新東障連	職員研修会「和歌山県の防災・減災 対策」	県危機管理局防災企画課 柏木氏	1名
3月2日	全障研和歌山県新宮 東牟婁サークル	発達セミナー 「1歳半頃の発達の姿」	京都華頂大学教授 西川由紀子氏	1名

10. その他の業務

(1) 法人内利用者の宿泊体験実習の受け入れ

〔令和5年度利用実績〕

日中一時利用 利用者 0名 延べ利用人数 0名（0時間）

宿泊体験利用 利用者 4名 延べ利用人数 11名（11泊）

作業所職員による宿泊支援回数 6回（同泊）

※本年度は感染症予防のため家庭の都合による利用のみ受け入れを行いました。